

〔2〕 ありのまま自立支援大賞 重度障害者・生涯学習ネットワーク



全国各地で活動している重度障害者・生涯学習ネットワークの皆様

●設立趣旨書（ホームページより）平成29年12月25日

生きることは、学ぶこと。

学ぶことは、生きる喜び。

生涯にわたって、学ぶ続ける喜びを！

医療的ケアを必要とする障害の重い方の多くは、在宅生活を余儀なくされていますが、心豊かな生活の実現のために、「大学に行きたい！」「もっと勉強したい！」などの「学び」を希求しています。それは、存在を懸けた声にならない叫びです。

そのような方の生涯にわたり学び続けたいという夢や願いに応えるために、私たちは、「カレッジ」等の名称を冠した学びの機会と場を創ってきました。その取り組みは、かけがえのない人生のかけがえのない「時」を、学びたいことを学ぶ「時」とすることがモットーです。そして、そのことによって、生きがいと喜びがあり、生き生きと輝く地域生活を可能にすることです。

その取り組みを約5年間継続してきましたが、一つ一つの団体としてではなく、ネットワーク化して、力を合わせ、活動を拡充していくことが必要であると考えました。

「障害者の権利に関する条約（第24条）」では、「あらゆる段階における障害者を包容する教育制度及び生涯学習を確保する」と提唱しています。更に、文部科学大臣は、「障害のある方々がそれぞれのライフステージで夢と希望をもって生きていけるよう、生涯にわたる学習活動の充実を目指すために関係部局の連携を図ること」と発出しています。

そのような時代背景の変化に鑑み、この度、下記の団体による「重度障害者・生涯学習ネットワーク」を結成し、発足することにいたしました。

【活動内容】

- (1) 重度障害者の生涯学習システムの開発
- (2) 重度障害者の生涯学習に関する理解・啓発活動
- (3) 生涯学習の学習内容に関する検討並びに系統化
- (4) 合同スクーリング及び本人講座の開催
- (5) 生涯学習に関わる人材の育成及び確保
- (6) 生涯学習に関する情報交換

【当面の活動予定】

○文部科学省の委託を受けて、「『重度医療的ケア者対象の訪問型生涯学習支援』に関する実践研究」に取り組んでいる。実践研究の成果は、以下の日程で報告会を開催する。

- ・ 7月～9月に東京・神奈川・千葉・岡山で実践報告会Ⅰを開催予定。
- ・ 10月に実践報告会Ⅱを開催予定。

【参加団体】18 団体(登録団体 2025 年 6 月現在 学生・スタッフ数 2024 年 8 月現在)

	事業名	事業者名	学生数	スタッフ	所在地
①	日野市障害者訪問学級	日野市障害者問題を考える会	19	24	東京都・日野市
②	訪問療育いるか	NPO 法人かすみ草	8	6	東京都・杉並区
③	訪問カレッジ ^{あっと} @ 希林館	NPO 法人地域ケアさばーと研究所	21	24	東京都・小平市
④	ひまわり Home College	NPO 法人ひまわり ProjectTeam	9	7	東京都・新宿区
⑤	訪問大学おおきなき	NPO 法人訪問大学おおきなき	13	10	東京都・大田区
⑥	訪問事業 ^{あいぼると} i.porte	NPO 法人あいけあ	3	2	神奈川県・川崎市
⑦	訪問カレッジ静岡	静岡県障害者就労研究会			静岡県・静岡市
⑧	在宅訪問学習支援事業 「SHJ 学びサポート」	NPO 法人スマイリング ホスピタルジャパン	17	7	東京都・杉並区
⑨	みんなの大学校	一般社団法人みんなの 大学校	5	14	東京都・国分寺市
⑩	訪問カレッジEnjoyか ながわ	NPO 法人フュージョン コムかながわ・県肢体不 自由協会	23	24	神奈川県・横浜市
⑪	訪問カレッジ・オー プンカレッジ@愛媛大 学	国立大学法人 愛媛大 学	18	24	愛媛県・松山市
⑫	東京こどもホスピス プロジェクト	NPO 法人こどもホスピ スプロジェクト	13	4	東京都・昭島市
⑬	医療型障害児入所施 設カリヨンの杜	医療型障害児入所施設 カリヨンの杜			埼玉県・さいたま 市
⑭	訪問カレッジ@きー ば岡山	特定非営利活動法人 CAP プロジェクトおか	7	4	岡山県・岡山市

		やま			
⑮	訪問カレッジ ビー プラウ 「Be Prau」	一般社団法人ケアの方舟	3	9	埼玉県さいたま市
⑯	障害の重い人の地域支援ふりかけプロジェクト	明石市立ゆりかご園	36	10	兵庫県・明石市
⑰	特定非営利活動法人合	特定非営利活動法人合			埼玉県・越谷市
⑱	ぽればれ学習会	ぽればれ			新潟県・長岡市

【どんなことが学べるの？】

「訪問カレッジ Enjoy かながわ」の活動例をご紹介します。

特別支援学校などを卒業後、障がいや病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい18歳以上の方のご自宅等を学習支援員が訪問して、学びを支援する訪問型生涯学習支援です。

学びの主体者を「カレッジ生」、学びの伴走者を「学習支援員」と呼んでいます。

分野	活動内容例
自然科学分野	物理や化学、生活に身近な実験 動物（好きな動物・恐竜等古代生物）生物、植物、栽培活動（野菜・草花・樹木）宇宙や星空の学習
社会科学分野	歴史（古代の歴史 日本の歴史）地理（日本・世界 世界遺産）新聞等による社会的知識の習得（社会・経済・住んでいる地域研究）
人文科学分野	文学 読書活動（絵本の読み聞かせ）創作活動（詩・絵本）外国語
家政学分野	調理実習 手工芸 染色 生け花 縫製（ミシン）
文化・芸術分野	音楽 歌唱 合奏 鑑賞 作曲 絵画 粘土 版画 鑑賞 美術館巡り（オンライン）書道 演劇鑑賞
保健体育分野	体操・ダンス身体表現・健康管理・体の取り組み・ボールゲーム等
言語・コミュニケーション分野	ICT 機器の活用（視線入力・スイッチ操作等入力方法の開発と表現活動）コミュニケーション方法の取得、メールや Facebook の活用）
伝統文化分野	季節の行事 地域のお祭り
校外学習	社会見学 乗車体験 図書館 買い物（オンライン）

●「重度障害者・生涯学習ネットワーク」設立のきっかけ

「感動しました。しかしながら、次のステップへ発展させるためには、同様な取り組みをしている団体をネットワーク化し、組織化した方が良いでしょう」と「訪問カレッジ@希林館」の取り組みをヒアリングされた文部科学省障害者学習支援推進室の室長さんから助言を頂きました。本会設立のきっかけは、この助言です。立ち上げは2017年、「訪問カレッジ希林館」（2012年）設立の5年後です。

現在18団体までに拡充しています。今後も、「学びたい！」との声を受けとめ、活動を広げ、団体同士でつながり、力を合わせていきたいと思っています。

●これまでの実績

私たちの実践研究の特徴は、「学びの形は無限大」をあいことばに、日々積み重ねている障害の重い方の学びプログラムの開発です。個々のカレッジ生の学びのニーズに応えるためには、多様なプログラムの開発が必要で、学びが広がり深まることで更なるプログラムの開発が必要になります。生涯学習のプログラムやツール、ノウハウの開発は、「その人らしく豊かに生きる」生き方の支援に繋がり、人材育成としても活用されています。

また、私たちの活動は、大学や地域と連携して地域に根を張り、成長してきました。ネットワークの各団体が様々な大学と関り、大学生も活動に参加しています。大学生の訪問は、同世代との関わりを楽しむ機会となり、障害の重い方やそのご家族と直接対面できる貴重な機会になっています。地域社会に向けては、毎年、学習支援員のボランティア講座を開催したり、訪問カレッジの文化祭を開催したりしています。地域の方を始め、特別支援学校や社会福祉・医療関係者、行政への発信にもなり、この事業の理解啓発になっています。

私たちの活動は文部科学省の実践研究等に支えられていますが、現状では法定外の活動です。そうした中、厚生労働省令和6年度補正予算に「特別支援学校卒業後における生活介護利用モデルの作成事業」が盛り込まれ、その公募の実施要綱の中に「・・・なお、生涯学習プログラムの開発・実施にあたっては、『重度障害者・生涯学習ネットワーク』など、重度障害者の生涯学習に関して実績や知見を有する団体等と連携することが望ましい」と私たちの団体名が明示され、私たちの歩みを更に加速する必要性を認識したところです。

●活動の中で工夫していること・大事にしていること

重度障害者の生涯学習において、本人の意思と尊厳を尊重することは、最も大切な基盤であると考えています。画一的なプログラムではなく、一人ひとりの障害特性、発達段階、興味・関心、さらには体調の変化にまで細やかに寄り添い、その人にあった学習内容と方法を検討するオーダーメイドの支援が不可欠です。意思表示が難しい場合でも、表情、身体の動き、声など、あらゆるサインから本人の「したい」「楽しい」といった気持ちを読み取り、学習への参加を促すことが重要です。

そして、小さなことでも「できた」という成功体験を積み重ねることで、自己肯定感を育み、学習意欲を高めます。結果だけでなく、プロセスを承認し、達成感を共有することも大切です。重度障害者の生涯学習は、目に見える成果がすぐには出にくい事が多いので、日々の小さな成長や変化を見逃さないように、長期的な視点を持つことを大切にしています。

豊かな生涯学習を保障するための具体的な工夫としては、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚といった五感を刺激する教材や活動を取り入れることで、認知や理解を深めます。例えば、絵本や音楽、アロマ、感触の異なる素材、などがあります。言葉でのコミュニケーションが難しい場合でも、絵カード、写真、身振り手振りなどの AAC（拡大・代替コミュニケーション）を用いたり、ICT 支援機器等を活用したり、その人にあった多様なコミュニケーション手段を取り入れています。

さらに、学習を通じて、地域社会や他者との関わりを深める機会を提供し、孤立を防ぎ、社会の一員として生きる喜びを感じられるような工夫にも努めています。そして、家族は生涯学習の最も身近なパートナーです。家族のニーズや希望を丁寧に聞き取り、情報提供や相談支援を行うとともに、学習プログラムへの協力体制を構築します。これからも本ネットワークは、カレッジ生の自己実現に向けた学びを支援していきます。

●思い出に残る出来事

2022 年 11 月 25 日から 3 日間、パシフィコ横浜のガーデンラウンジで、ネットワークとして初めての文化祭を開催しました。これは、文部科学省の令和 4 年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」の一環である、訪問カレッジ「学びの実りアート＆ミュージックミュージアム」です。このイベントは、カレッジ生が、日々の学びの成

果を発表する文化祭として企画されました。参加された皆さんにとっては、学習の集大成を披露する晴れ舞台に。そして、ご家族や支援者、来場された多くの方々にとっては、カレッジ生たちの可能性と、学びの喜びを肌で感じる貴重な機会となりました。

会場には、一つひとつ丁寧に作り上げられたアート作品が並び、色彩豊かな表現やユニークな発想が来場者の目を楽しませました。このイベントは、単なる発表会にとどまらず、重度障害者の生涯にわたる学びの意義、そしてその可能性を社会に発信する場となりました。

●今後の目標

重度障害者の生涯学習支援（その人らしく豊かに生きる支援）を望む声は、徐々に広がっています。

運営基盤の弱い訪問型生涯学習支援を持続可能な展開にするためには、

①財政基盤を整える（制度化）

②訪問型生涯学習支援の更なる拡大

③ノウハウを提供して様々な機関で生涯学習が実施されること等が重要だと考えています。そのためには、連携機関を増やすこと、学習支援員を増やすこと、協力者支援者を増やすこと、行政との繋がりを増やすことなどが不可欠だと考えています。

今週、カレッジ生とのお別れがありました。悲しみの中、保護者の方から大切な活動だと励まされました。障害があることで、自由に身体を動かすこと感情表現が非常に困難な方でも、嬉しいと感じる事、楽しいと感じることは同じです。出会いの機会が少ない中、誰かと出会い、一緒に活動する喜びは大きいものです。二人三脚で行う訪問型生涯学習支援は、カレッジ生だけでなく学習支援員の生き方支援にもなっています。

訪問型生涯学習支援（訪問カレッジ）は、障害があっても「学ぶ権利」があること、「学ぶことは生きること」と生涯教育の理念が輝く時間です。私たちは、生涯学習に携わり「学びの力」を一層体感しています。上手くいかないうちも含め「学びは楽しい」に尽きます。

そして、重度障害者の方の訪問型生涯学習支援に関心を持つ方は、全国に点在しています。私たちネットワークの存在が、それらの方の思いを支え、繋ぐ役割を果たしていきたいと思っています。

●受賞者談話

「私たちの団体を、良く見つけ出して、大きな賞を授けて下さった。夢のようです！」と、喜びが込み上げました。これは、ネットワークでいただいた賞ですが、主人公はカレッジ生です。その喜びを全国でがんばっているカレッジ生と分かち合いたいと思っています。

私たちは、1990年の頃から、特別支援学校における医療的ケアの課題に取り組んできました。そのプロセスの中で、訪問教育の生徒の卒業後は、在宅生活を余儀なくされているため、訪問による学習支援が必要と考え、活動を開始しました。現在約200名の学生が学んでいます。学生への訪問は、一人一人の生命を支え、ご家族にささやかな希望を与えるなど、その成果は大きいものがあります。それを支えているのは、学習支援員です。

受賞は、私たちの活動を更に広げる突破口となるでしょう。ありがとうございます。

【選考理由】

「生きることは、学ぶこと。学ぶことは、生きる喜び。生涯にわたって、学ぶ続ける喜びを。」を設立趣旨に掲げ、医療的ケアを必要とする方の学び続けたい希望に耳を傾け、訪問という形で学びの機会を提供してこられました。2017年12月に全国でそれぞれが活動していた団体をネットワーク化して、活動は10年以上になります。2025年度より障害者福祉サービスの中に学校卒業後の進路先として「訪問支援」が位置づけられ、大きな活動の成果と言えます。元先生や元支援学校の先生方が熱心な気持ちと諦めない思いでひとりひとりに寄り添い、生徒たちの希望やニーズに応えながら様々な工夫と発想をこらし教育の場を提供してこられました。さらに活動を広げるため、大学の学生にボランティアの呼びかけを行い体験の場を提供し、また美術館や博物館の学芸員の方にも見学の依頼や講師を依頼されるなど、活動は広がりつつあり、お互いが経験することで共に社会で暮らしていくことの理解へとつながっています。難病や重い障害を持っていても教育を保障し、その人の自己実現を目指すことは、誰もが誇りをもって人生をおくることのできることを可能にした取り組みを高く評価し、ありのまま自立支援大賞をお贈りします。現在18団体が加盟しておられ、今後の更なるご活躍と発展を期待しています。